

## 難治性多発再発霰粒腫に対する眼瞼直接照射Intense Pulsed Light治療の有効性と安全性

福岡 詩麻<sup>1,2)</sup>, 有田 玲子<sup>2,3)</sup>

大宮はまだ眼科西口分院<sup>1)</sup>, LIME研究会<sup>2)</sup>, 伊藤医院<sup>3)</sup>

【目的】マイボーム腺の形態と機能を温存する観点から、我々は「切らない霰粒腫治療」の有効性を報告してきた。今回、Intense Pulsed Light治療（IPL）をしても再発を繰り返す多発霰粒腫に対し、眼瞼に直接IPLを照射した症例について調べた。

【対象と方法】2023年にIPLを開始した再発性霰粒腫患者についてレトロスペクティブに解析した。

【結果】15例(男3例、女12例)にシール状アイシールドを貼付し両眼上下眼瞼周囲に2~4週毎IPL（シール）を2回以上施行した。シールIPL後に再発を認めた6例中、両眼多発霰粒腫4例(男1例、女3例、年齢 $39.8 \pm 4.1$ 歳)に、金属製アイシールドを挿入し眼瞼直接照射も行った(眼瞼照射)。シールのみ群と比べ眼瞼照射群では、IPL開始時の霰粒腫数( $1.9 \pm 1.0$ 、 $3.5 \pm 1.7$ 個)には有意差がなかったが、霰粒腫のある眼瞼( $1.7 \pm 0.8$ 、 $3.0 \pm 0.8$ )が多かった( $P=0.078$ 、 $0.034$ )。シールのみ群はIPLを $4.1 \pm 1.9$ 回、眼瞼照射群はシール $4.8 \pm 2.2$ 回後に眼瞼照射 $5.5 \pm 1.7$ 回(計 $10.3 \pm 3.9$ 回)を行った。シールのみ11例中10例が4回以内、1例が7回のIPLで霰粒腫が治った。眼瞼照射4例中3例で4~5回の眼瞼照射で霰粒腫が治った。酒さを合併する1例で眼瞼照射6回後も霰粒腫再発を繰り返した。眼瞼照射前後でマイバムグレードが $2 \pm 0$ から $1.3 \pm 0.5$ となった。全例でIPLの副作用は認めなかった。

【結論】眼瞼直接照射IPLにより、難治性多発再発霰粒腫に対しても治療ができる可能性が示唆された。

---

【利益相反公表基準】該当有

【IC】取得有

【倫理審査】承認有